

## 第92回 関西広域連合委員会

日時：平成30年4月26日（木）

16：20～17：20

場所：リーガロイヤルNCB2F淀の間

開会 午後 4時20分

○井戸広域連合長 定刻を過ぎましたので、開催をさせていただきたいと思います。  
第92回関西広域連合委員会です。

まず最初に、先日当選をされました京都府知事の西脇知事から御挨拶をいただきたいと思います。

○西脇委員 4月16日付で山田前知事の後を受けまして京都府知事に就任いたしました西脇でございます。山田前知事に引き続きまして広域観光、文化を担当させていただきます。関西の存在感が高まるように努力してまいりたいと思いますので、井戸連合長初め、皆様の御指導、御鞭撻をよろしく願いいたします。どうかよろしく願いいたします。ありがとうございます。

（拍手あり）

○井戸広域連合長 西脇知事から御挨拶いただいたのですが、4月の人事異動で事務局職員もかわっておりますので、少し時間をとらせていただきまして紹介したいと思います。

○本部事務局長 失礼いたします。この4月1日に本部事務局長を拝命いたしました村上でございます。ふつつかものですが、どうぞよろしく願いいたします。前任の中塚局長は、ワールドマスターズゲームズ組織委員会の事務局長に転出しております。よろしく願いします。

（拍手あり）

○本部事務局長 続きまして、転入した幹部職員を紹介させていただきます。

大阪府からの次長で明見でございます。

(拍手あり)

○本部事務局長 あと企画課課長、京都府から中路でございます。

(拍手あり)

○本部事務局長 この4月に新設いたしました連携推進課の課長として滋賀県から松本でございます。

(拍手あり)

○本部事務局長 資格試験の免許の担当課長でございます徳島県から永峰でございます。

(拍手あり)

○本部事務局長 また、地方分権課の課長として大阪府から染矢でございます。

(拍手あり)

○本部事務局長 また、議会事務局長として滋賀県から千代局長。また、内部で次長の京都府から西村次長が昇格しておりますので、紹介させていただきます。

(拍手あり)

○村上事務局 あと内部異動がございました。新しく連携担当の参与として森でございます。以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○井戸広域連合長 新体制になりましたので、どうぞ、しっかり頑張ってくれると思います。よろしくお願いいたします。

それでは早速に協議事項に入らせていただきます。

「関西スポーツの日」及び「関西スポーツ月間」の制定についてです。スポーツ部から説明をお願いします。

○広域観光・文化・スポーツ振興局スポーツ部長 スポーツ部でございます。資料1をお願いいたします。

ワールドマスターズゲームズ2021関西に向けた機運醸成と、府県民のスポーツ参加促進方策としまして、関西大会の開催まであと3年となる今年、関西スポーツの日、

関西スポーツ月間を制定しまして、構成府県市を挙げたキャンペーンを実施すること  
としたいと思います。

具体的な内容ですけれども、1にありますように、ワールドマスターズゲームズ関  
西の開会日に当たります5月の14日、これを関西スポーツの日、また関西スポーツの  
日を中心としました5月の1カ月間を関西スポーツ月間に制定したいと考えておりま  
す。

今年のキャンペーンの実施内容としましては、スポーツ月間の期間中に、関西圏域  
内で開催されるスポーツイベント、下に主なものを記載させていただいておりますけ  
れども、そういったスポーツイベントの場や、あるいは体育施設等におきまして、資  
料記載のキャッチコピーを活用しましたポスター、あるいはのぼりなどを掲示しまし  
て、広く周知啓発を図りたいと考えております。

とりわけワールドマスターズゲームズ2021関西の開会日の3年前となります関西ス  
ポーツの日には、構成府県市の主要駅等におきまして啓発グッズを配布するなど、関  
西一円での街頭キャンペーンを実施したいと考えております。

なお、当日はワールドマスターズゲームズ2021関西の組織委員会もこの取組と連携  
しまして、JR大阪駅での啓発活動を実施するとお聞きしているところでございます。

説明は以上です。どうぞよろしくお願ひいたします。

○井戸広域連合長 それでは何か御意見がございましたらお願ひします。もし御異  
議なければ、5月14日を関西スポーツの日、5月を関西スポーツ月間として挙げて取  
り組んでいくことにしたいと思います。よろしく御協力をお願ひいたします。

それでは、協議事項は以上でございます。

報告事項が幾つかございます。まず最初に統計センターと統計局の和歌山県への一  
部移転についてでございます。仁坂副連合長から御説明をいただきます。

○仁坂副広域連合長 お手元の資料2、でタブレットに入れてはありますが、そ  
れを見ながらお聞きください。

総務省統計局が4月1日から、一部ですけれども、和歌山県に移転してきて、もう既に本番の仕事をしてきています。もともと新宿にある総務省の統計局と統計センター、全部合わせて1,400人いるんですけれども、これを全部くださいと言って、しばらく議論していたんですけれども、全部はだめだけれども、統計データ利活用センターというのを作るから、それを和歌山に持って行ってあげましょう、となりました。

そこで、和歌山市駅の横に新しくできた5階建てのビル、そのワンフロアに統計データ利活用センター、これ13名の方々がいらっしゃいますが、もう既に稼働しています。それから同じフロアで、和歌山県データ利活用推進センターという6名から成る組織を作って、一体的に協力しながら活動しているということでございます。

総務省統計局の統計データ利活用センターは何をするのかということですが、分けるとこの三つになります。一つは、左上の、「データサイエンス・EBPMに資する統計データ利活用推進」ですが、これは統計の利活用について、こんなふうにしたら世の中のためになるんじゃないかということについて研究をしております。

それからその下は、「統計データ利活用に関する人材育成」ということで、どうしたらそういうことのできる人たちがどんどん生まれてくるかということについての研究と、それから自治体の研修もやる。それから、右のほうにその前提となっている「統計マイクロデータの提供」があります。統計データは、統計という分類された形で、我々のところへ届けられてきたんですけれども、個票の中からはいろいろなことができる。それを統計マイクロデータの提供という形で取ってきてAI的なセンスでデータ分析したら何が出てくるかということを考えて、これを行政やビジネスに役に立たせようというのが大きな目的です。

それから、その次のページへいきますと、中身はこんな感じでやっておりますという例があります。

その次のページは、決定木分析というんですけれども、もとは全国消費実態調査であります。育児休業をどういう人が取っているかということについての分析ですが、

まず子供の年齢で分けるということで、ゼロ歳の子供があるところというのは取得をする人、しない人が半分ずつぐらいですねと、右上に出てきますね。それから、子供がもう既に1、2歳になっている人は、ほとんどもう取得しないということになる。取得しない人は放っておいて、今度は、ゼロ歳の子供がある人が保育園に通園しているかしていないか、二つに分けていく。していないほうをまた分ける、また分けるという、どんどん分けていって、最後にある場合において、借金があるかないかでどう違うかというようなことが分析、もちろんこのラインで絞っていただけじゃなくて、別の絞り方もあるわけですね。借金がまずあるかどうかなんていって絞っていくこともできないこともない。というようなことをいろいろやっていきますと、これは消費実態調査だけのデータ分析なんですけども、これに別の統計を組み合わせたりと、また同じようにいっぱい出てくるということでもあります。

次のページは和歌山県データ利活用推進センターです。これは同じフロアで協力しています。どんな協力かというと、資料には書いていませんが、会議室や、それからセミナールームをたくさん和歌山県が借りてありますから、どんどんそれを活用してやってくださいというような感じが一つあります。

それから、これも書いておりませんが、景気づけとか、PR活動ということで、全国の高校生や大学生にどんな利活用が考えられるか、アイデアのコンペ募集をしたわけです。なかなかいいなと思うようなものには、賞状を差し上げる。これを和歌山県の協賛事業としてやっている。

それから、そのあと二つですね。具体的な研究もやってみようということで、人工知能（AI）を用いてSNS情報を抽出して蓄積していったらどうかというようなことを今やっています。もう一つは、医療や健康に関するデータ、これはカルテですね、あれを分析しちゃおうと思っていて、実は井村先生がオール関西でやっておられることなんですけれど、現実にはどれだけデータ蓄積が行われているかということ、何か高邁な議論をしているので、なかなか進めないというのが分かっている、和歌山だけ

で小ぢんまりと、とりあえず一発やってみますかと、それでそれをモデルとして、井村先生にまたバージョンアップしてもらったらいいんじゃないかということで、こんなこともやる。

そういうことをいろいろやりながら、統計局の統計データ利活用センターを助けていこうとしています。以上でございます。

○井戸広域連合長　　ありがとうございました。何か御質問ございますか。

それでは、統計データの活用で、有意義な活用方式とか見つかりましたら、情報共有していただくことをお願いしておきたいと思います。ありがとうございました。

それでは続きまして、松井知事がいらっしゃっておられますが、まず、2025年の日本万国博覧会の誘致活動について御報告をお願いいたします。

○松井委員　　万博誘致におきましては、本日お集まりの皆様賛同者数の拡大、またB I E調査団の来日時への対応を初め、数々の場面で誘致活動に多大なる御協力をいただき厚くお礼を申し上げます。

2025年の万博開催地が決まる本年11月まで、残り約半年となりました。大阪関西万博に対するB I E調査団の評価は、皆さんも御承知のとおり、総じて良好でありましたが、ロシア、アゼルバイジャンとも大統領が調査団と直接面談するなど、しっかりアピールをされ、B I E調査団による3カ国の評価は、総じて甲乙つけがたく良好で横一線ということになっております。誘致競争はこれからますます熾烈さを増していきます。これからの取組が誘致の成否を分けると考えています。B I Eに加盟する170カ国から過半数の支持を得るために、国や経済界、自治体、それぞれが自らの資源やネットワークなど、最大限に活用し、やれることは全てやるという認識のもと、総がかりで活動を展開したいと、こう思っています。中でも海外プロモーションに力を入れたいと、ついては皆さんの友好都市への親書の送付や、海外プロモーションでの支持の働きかけなどの取組をお願いしたいと思います。関係国キーパーソンを招聘する際には、プログラムに合わせ支持獲得のため効果的な取組にもお力添えをお願い

いたします。また、国内機運の醸成も大切でありまして、引き続き賛同者の拡大、ポスター掲示等による機運醸成に御協力をお願いしたいと思っています。

また、過日の連合委員会で、奈良県の荒井知事から、奈良県が出展されるジャポニスム2018について紹介があったように、今年の7月からB I Eの本部があるパリでこのジャポニスム2018が開催をされます。パリにはB I Eの政府委員も多く駐在をされています。日本文化への関心も高いので、このような場を活用することは、万博のP Rに効果があると、こう考えています。

奈良県からは10月の祭りの出展に際し、万博誘致に向けた取組について、誘致委員会に御相談をいただいているところです。本当に感謝します。ありがとうございます。他の参加予定のある自治体におかれましても、万博のP Rをぜひお願いしたいと思います。

大阪、関西の総力を結集し、何としても誘致を勝ち取りたいと、こう考えていますので、皆さんの御理解、御協力を引き続きお願いします。

細部の補足につきましては、配付資料に基づきまして事務方より説明をさせます。

○事務局　それでは万博誘致委員会から資料に基づいて補足させていただきます。

2025万博の誘致活動についてという資料の2ページを御覧願います。

海外プロモーションにつきましては、友好都市等への親書送付を初めまして、国際交流イベントや外国要人の表敬受けなど、あらゆる機会を利用しまして、加盟国に対する日本支持への働きかけをよろしくお願いいたします。

本日は皆様方のお手元に親書の例文をお配りしております。この他にも親書と一緒に送ります万博誘致について説明をする外国語のパンフレットも提供できます。誘致委員会事務局として最大限の協力をさせていただきますので、よろしくお願ひしたいと思います。

資料の3ページを御覧願います。国内機運醸成につきましては、賛同者数の拡大等の取組を継続するほか、関係国キーパーソンの招聘プログラムに合わせました効果的

な取組を行います。また、今年度に入りましてから、万博誘致のポスター、チラシ等を追加で皆様にお渡ししております。こうしたPRツールを効果的に御活用いただきまして、誘致活動への一層の理解促進に御協力を賜りたいと存じます。

資料の4ページを御覧願います。本年4月上旬現在、賛同者数が約116万人となっております。BIE調査団による視察終了後も引き続き増加しておりまして、これまでの皆様の御理解、御協力に厚くお礼を申し上げます。

資料の5ページを御覧願います。万博誘致の決議等でございますが、昨年度末までに大阪府内の全ての市町村で決議や請願採択等の賛同表明が行われました。また、都道府県議会からも多くの決議をいただいておりますほか、兵庫県内、和歌山県内では11市町の議会から新たに決議をいただいたところでございます。太い字になっているところが新しい決議でございます。

この結果、決議団体は全体で123団体となっております。

資料の6ページ以降につきましては、これまでのプロモーションの取組事例となっておりますが、今後こうしたコンテンツを誘致委員会のホームページでも取り上げまして、内外への情報発信力を強化していきたいと考えております。国内機運醸成、海外プロモーション問わず、皆様方の取組をホームページで紹介させていただきますので、例えばPRツールを使いましたイベントの様子でありますとか、外国要人の表敬を受けられたときの様子を画像におさめていただきまして、誘致委員会事務局まで御提供いただければ、よろしくお願ひしたいと思います。以上です。

○井戸広域連合長　　いずれにしましても、秋の誘致決定に向けて、松井知事の御依頼ではございません、我々自身の問題としてしっかりと取り組んでいって、誘致が決まりますことを努力をさせていただきたいと思ひます。

先ほどは仁坂知事が、松井知事が経産省に行かれた時には、何票確実にしたい、何票、それから何票がまだうやむやなのか。何票が反対なのか。そこをきちっと見きわめろという話を毎回、御指摘のように、向こうに突きつけるのに非常に有効だという



ことがありましたので、松井さんなら十分やれると。ぜひよろしくをお願いします。

○松井委員　いえいえ、そういう情報交換はまたしっかり委員会としてもやっておりますけど、要は無記名投票なので、本当に大丈夫と言われても、選挙と同じで、大丈夫と言われても、これ本当に書いてもらえるのか、名前を書いてもらえるのかということはありますから、これはもう徹底してとにかく過半数獲得に向けて、あちらこちらからお願いをされるのが一番、各国、票を固めるということでは一番だと思えますから、ぜひ連合委員会の委員の皆さんの御協力をよろしくお願いしたいと思えます。

○井戸広域連合長　ありがとうございます。しっかり頑張ってまいりましょう。

続きまして、2019年、来年のG20の大阪サミットにつきましての取組について、同じく松井委員からよろしくをお願いします。

○松井委員　2019年のG20大阪サミットに関しまして、まず皆さんにお礼と現状の取組について報告をいたします。

前回の連合委員会でサミット推進協力協議会事務局の立ち上げに当たっての職員の方々の派遣について協力をお願いをさせていただきました。おかげをもちまして、4月1日付で事務局を立ち上げ、大阪府、大阪市、大阪府警本部や経済界に加え、関西広域連合の構成府県からも職員の方々の派遣をいただき、現在37名体制でサミット開催に向けた業務に当たっております。関西広域連合構成府県には、事務局への職員派遣、御協力いただきまして、この場をお借りして改めて感謝を申し上げます。

取組の現状について資料に基づき説明をさせていただきます。

まず資料の1ページ、日程、場所については、去る4月の10日にG20大阪サミット、2019年の6月の28日から6月の29日、大阪府で開催をするという閣議了解を得られました。先ほど申し上げましたように、2ページですけど、4月1日付で2019年、G20大阪サミットの関西推進協力協議会の事務局を立ち上げたところであります。この表のとおり事務局体制といたしました。

資料3ページ、サミット開催に係る行政課題に対しまして、大阪府市一体となり、関係部局が主体的に取組を推進することを目的といたしまして、G20大阪サミット推進本部を設置し、救急医療、防災、危機管理の対応の課題整理を行っているところで

す。

今後、各府県の病院なども含めた救急医療体制の構築や、消防、救急、救助活動への人的な応援など、関西広域連合や経済界などの御協力もお願いしたいと考えております。

次に、資料4ページですけれども、サミット成功には住民、事業者の皆さんへの理解と協力促進と、おもてなしの機運を盛り上げることが最も重要です。そのために、夏までは集中周知期間として位置づけまして、開催の意義や会場、日程等について周知に努める予定です。5月にはポスターやリーフレットを事務局で作成をいたしますので、関係先での掲示など、広報の御協力をよろしくお願いいたします。

このほか、本日の資料には記載はしておりませんが、大阪、関西の魅力を世界に発信をするために、サミットのレセプションや、配偶者プログラムへの地元名産の食材、訪問場所などについて積極的な御提案を頂戴をしたいと思います。大阪、そして関西各地の住民、事業者の皆さんの御理解、御協力のもと、安全・安心の確保や各国代表団への最高のおもてなしを行うことが、大阪、関西を世界にアピールをする絶好の機会と捉えております。オール大阪で万全の準備を進めてまいりたいと、こう思いますので、引き続き皆さんの御協力をよろしくお願いをいたします。

○井戸広域連合長　　ありがとうございました。G20ですね、日にちも決まりましたし、手順を追って準備を進めていく時期になってきております。地元として松井知事からの御要請を承りましたけれども、いずれにしても、成功させなければいけませんし、あわせてエクスカージョンに関連しては、もう必ず関西全域が舞台になるはずでありますし、今の食材などの提供などにつきましても、協力をしていく必要があります。そのような意味で、しっかりと来年の6月を目指して準備を進めていくように

我々もしていきたいと思えます。どうぞよろしく御協力をお願いします。

それでは、3番目でありますが、ワールドマスターズゲームズ2021関西大会準備状況につきまして、事務局長中塚から御説明いたします。

○(公財)ワールドマスターズゲームズ2021関西組織委員会事務局長　ワールドマスターズゲームズ組織委員会から4点御報告申し上げます。

1点目は、去る4月16日、I M G A、国際マスターズゲームズ協会の総会におきまして、関西大会のプレゼンテーションを行い、その結果、記載のとおり34競技、58種目が正式に決定いたしました。2016年の10月に国内的に32競技、55種目を決定したところですが、今回、1番目のアーチェリーの中のインドア、それから7番目、カヌーの中のポロ、番号でいいますと11番目のフライングディスク、そして25番目のソフトテニス、これらが新たに追加されることになりました。その結果、34競技、58種目ということになりました。

次のページに、各府県別に開会式、閉会式も含めました開催地状況について取りまとめておりますので、また御覧いただければと思えます。

第2点目、3点目は、レガシーの創出にかかわる報告でありますけれども、1点目、大会のスローガンでありますT e a m　D o　S p o r t s、一緒にスポーツをということテーマとしましたポータルサイトを4月17日に立ち上げました。このポータルサイトの機能は四つありまして、一つ目がエントリー機能ということです。これは各種大会の、国内の大会のイベント情報を記載しておりまして、下のほうにありますR U N N E T、その他の国内最大級のポータルサイトと提携をいたします。その結果、スポーツ大会についての全国各所のスポーツイベントが検索できる。なおかつそのページからエントリーができる、そういう機能であります。これが一つ目。

二つ目が、パーソナル機能ということでありまして、これは個人もしくはチームで登録をいただきますと、それぞれの活動を紹介できるとともに、対戦相手をSNSを通じて求めたり、仲間を探すことができる、そのようなサイトの機能であります。

三つ目がニュース機能ということで、ワールドマスターズゲームズ関西の大会情報はもちろんですが、その他のさまざまな情報を提供する機能ということです。

四つ目が、サービス機能、これはまだ立ち上げておりませんで、年度内には開始予定ですが、スポーツ施設の情報あるいはスポーツ用具レンタルなどの関連サービス情報を提供していきたいということでもあります。

このポータルサイトに集まりますスポーツ愛好家の皆さんには、ワールドマスターズゲームズの情報を提供するとともに、参加の促進、参加をしていただくというようなことのねらいを持って運営を開始しました。ポータルサイトにつきましては、ワールドマスターズゲームズ終了後は一つの大会のレガシーとして、日本最大級のスポーツポータルサイトとして運営していくということでもあります。

各自治体の広域連合構成団体、あるいは参加の自治体の皆さんのスポーツイベントをどんどん掲載していただきますようお願いいたします。

三つ目、これもレガシーの創出に絡むわけですが、TSUNAGUプログラム、これはワールドマスターズゲームズを応援していただく、あるいは一緒に盛り上げていただくさまざまな団体の、スポーツだけではなくて、文化事業やボランティア活動、地域交流事業、子供会の活動といったことについて、ワールドマスターズゲームズに登録をいただいて、一緒にそれをやっていきたいということでもあります。

基本要件としまして、レガシー創出の基本構想の中にまとめました五つの項目、スポーツから教育、科学、次世代の進化まで、この五つのテーマに即しまして、実施要件の中に書いておりますので、要件をクリアする活動をホームページに登録をいただくということです。登録されますと、特典1と書いておりますけども、TSUNAGUプログラムのロゴマーク、その真ん中の辺に五つほど色違いの、Team Do Sportsのコンセプトロゴを掲載しておりますけども、このロゴマークを使うこともできますし、大会マスコットのスフラのイラストも使っていただけます。あるいはポスター、チラシ等でのワールドマスターズゲームズTSUNAGUプログラム

という表記もしていただけます。あわせて、ワールドマスターズ大会公式ホームページでも、登録された活動を広く発信していくということでもあります。この登録については、5月14日、先ほど関西スポーツの日を決定いただきましたが、5月14日をもって登録開始の作業を現在進めているところであります。

最後に、第1回アジアパシフィックマスターズゲームズ2018、これはマレーシアのペナンで開かれます。関西大会はワールドワイドの世界大会ですけれども、それ以外に、アジアパシフィックマスターズ、ヨーロッパアンマスターズ、パンアメリカンマスターズという地区大会が三つあります。このうちのアジアパシフィックマスターズゲームズが初めてアジアで開かれますけれども、それがマレーシアのペナンで、今年の9月7日から15日までの9日間開催されることとなります。

このペナン大会に対して兵庫県の実行委員会で、次のページになりますけれども、ツアーを企画していただきました。このシンボルアスリートと出ておりますけれども、こういった方々が同行していただきまして、大会参加された方の応援はもとより、懇親会等での交流も予定されているというコースであります。詳細、大会参加経費等については5月上旬に発表する予定とお聞きしておりますけれども、6日間のモデルコースが記載されています。例えばこれに参加いただきますと、おおむね10万円程度とお聞きしているところです。この大会申し込みに合わせて、ペナン大会のエントリーもあわせて行えるという企画になっておりますので、構成団体の皆さんもぜひ、PRはもちろんですけれども、参加もしていただけますので、よろしく願いいたします。これは兵庫県だけではなくて、関西全域の皆さんが参加できるということでもありますので、よろしく願いいたします。

組織委員会からの報告は以上でございます。

○井戸広域連合長 特に何か御質問等ありますか。

このTeam Do Sportsポータルサイトは、これは日本人だけなんですか。

○中塚事務局長　いえ、これは海外でも当然使っていただけるようにしています。

○井戸広域連合長　さっきの資料は日本語でしか書いてないけど。

○中塚事務局長　英語版も予定しております。

○井戸広域連合長　英語版もある。

○中塚事務局長　予定しております。

○井戸広域連合長　ああ、そうですか。

それでは着々と準備を進めていただきたいと思います。あわせて、最後に御説明しましたマレーシアのペナンで行われますマスターズゲームズ参加者を募っておりますので、どうぞよろしく取り組んでいただきましたら幸いです。私もこれには行くということにいたしております。ゲームに参加できるかどうかは、また別の問題ですが、ともあれ、募集だけしておいて本人が行かないというわけにはいかないというつもりでおりますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、続きまして、関西観光本部の取組について、今年度の予定を御紹介いたします。

○関西観光本部森事務局長　関西観光本部の昨年の取組実績並びに今年度の予定について御説明をいたします。

まず、右肩資料6と書いてありますペーパーを御覧になってください。昨年度の取組でございます。まず、インバウンドのプロモーションにつきましては、旅行博であったり、ファミトリップといったものにつきまして、前からの関西地域振興財団の取組をベースとしながら、さらに各自治体、特にDMOを支援できるようなものについて実施をしてきたものでございます。それからあわせて関西全体のための新規市場開拓の調査を実施した上で、必要な新たなプロモーションも行ったところでございます。

裏面を御覧になっていただきたいと思います。また新しく、これまでと違いまして、広域ルートの磨き上げというものを各府県市の観光原課とともに実施をいたしました。あわせて、簡単なコールセンター、それからおもてなしバッジというソフトインフラ

の整備、それから文化振興としまして、関西文化の日の実施をしたところでございます。

今年度につきましては、2018年度7月までを一つの目途としまして、産官学が参加の上で新たな中期計画を策定したいと考えております。ここでは、いわゆる関西観光本部だけではない、インバウンド推進に向けての関西の各団体の役割を明らかにできないかと考えているところでございます。あわせて各イベントに向けての準備でございますが、G20、それからラグビーワールドカップに向けての関西観光本部なりのできることの抽出を現在やっておるところでございます。

最後になりますが、今回4月1日付で若手の研修派遣を受け入れることができました。兵庫県、和歌山県、京都市から1名ずつお越しをいただいたところでございます。実は本日以降、新人中心でベテランを1名だけつけた上でマカオの旅行博に派遣をしております。相当スパルタの運営をさせておりますが、育て上げてお返ししたいと思っております。大変ありがとうございました。

○井戸広域連合長　育て上げてお返しいただくのは2年先ですか。ありがとうございます。

関西観光本部の取組を挙げて一緒にやってもらうことで、関西の知名度をもっと上げなくてはなりません。そのような意味で、関西の知名度を上げる努力もあわせてさせていただいたらと思っておりますので、御協力をお願いいたします。

あと御報告ですが、関西女性活躍推進フォーラムの30年度の予定を資料7で御説明します。

○事務局　失礼いたします。それでは資料7を御覧願います。

関西女性活躍推進フォーラムにつきましては、働く女性が日本で最も活躍できる地域・関西の実現を目指しまして、関係団体の参画のもと、関西経済連合会と合同で昨年12月に立ち上げたものでございます。その後、有識者を中心といたしました企画委員会におきまして、構成府県市の男女共同参画担当部局にもオブザーバーとして参

加をいただきながら、平成30年度の取組予定について取りまとめましたので、御報告させていただきます。

3、平成30年度の取組予定を御覧願います。まず1点目、関西における働く女性を取り巻く現状や課題につきまして、ワーキングチームを設けまして分析してまいりたいと考えております。

次に、若年層への啓発でございます。関西広域連合で実施しております大学生との意見交換会につきまして、今年度は男女がともに活躍できる社会・関西をテーマに実施いたしますほか、働く女性活躍に関し、民間関係者等を大学へ派遣いたしまして、大学生等にも意識啓発等を行ってまいりたいと考えております。

裏面を御覧願います。関西女性活躍推進シンポジウムの開催についてでございます。本事業につきましては、内閣府が実施いたします事業に応募いたしまして、内閣府の地域版男女共同参画連携推進会議の一つでもあります、ひょうご女性の活躍推進会議等と共催で実施するものでございます。シンポジウムの開催案につきましては、点線囲み内で示してありますように、仮称ではございますが「関西は働きたい女性を応援します」をテーマにいたしまして、12月または2月頃に企業経営者や大学生を初め、一般の市民の方々を対象に兵庫県内で開催させていただきたいと考えています。

このほか本フォーラムにつきましては、多くの関係機関・団体に参画いただいておりますことから、こうした団体が実施いたしております女性活躍に関する研修会、あるいはイベント等をフォーラムとして共催で実施することで、関西全体における女性活躍に向けた機運の醸成等を図ってまいりたいと考えております。説明は以上でございます。

○井戸広域連合長 女性の就職率が低い、女性管理職比率が低いというのが関西の特性になっておりますので、これを払拭して、最も働きやすい地域・関西にしようというのがこのフォーラムの目的であります。そのための事業を展開してまいりますので、どうぞよろしく願いをいたします。



それでは、続きまして、資料8に基づいて琵琶湖・淀川流域対策につきましての研究会、部会の29年度の報告をさせていただきます。事務局お願いします。

○事務局 説明させていただきます。本研究会は、関西広域連合として、流域を見渡す俯瞰的な立場から琵琶湖・淀川流域の総合的な流域ガバナンスの実現に向けて検討してきたものでございます。平成29年度は優先的に検討すべき三つの課題に対して調査・検討を行ってまいりましたので、御報告いたします。

資料8を御覧ください。三つの部会のうち、資料で囲んであるAのリスクファイナンス部会、下、二つ目がBの水源保全部会、この二つの部会におきましては、昨年度琵琶湖・淀川流域全体の浸水現象や水循環の数値シミュレーションに必要なデータの収集や加工、それと計算条件の設定方法や制度設計の基本的な考え方の検討を行ってまいりました。

今年度は、これを用いた具体的なシミュレーションを行いまして、水害や水循環のマップづくりや、制度の概略研究を行ってまいります。

次のページを御覧ください。

次の三つ目の海ごみ発生源対策部会においては、半分から下でございます。写真を交えて報告いたします。大阪湾のプラスチックごみ調査では、写真を見ていただきますと、大阪湾沿岸の砂浜にペットボトルやレジ袋が多く漂着している実態を見ていただけたと思います。また、右のグラフでは、プラスチックごみが62.9%を占めている状況であることがわかります。このことからごみ削減のターゲットをペットボトル、レジ袋等のプラスチックごみとすることを考えて進めております。

床のほうに地図とともに置いておりますのが、調査の際に採取した砂でございます。洲本、須磨、加太、三つをまずこちらのほうで見ていただいております。また、御関心があれば後ほど御覧いただけたらと思います。

次のページでございます。今度は河川の流域のほうで、ごみ調査をした結果でございます。床のほうは調査全体、お手元の物とプロジェクターで示しているのが部分的

なものでございます。この部分的な資料、またプロジェクターのほうは、桂川、宇治川、木津川の3点合流部について、堤防からの目視調査の結果を10メートル当たりの20リットルごみ袋の数でランク分けして色別表示しております。

例えば水色の区域は10メートル当たりのごみが20リットル入りでゼロ、赤だったら2袋あったということを表しております。

資料の写真を見ていただきますと、左上のほうが河川の合流部のために、流速が小さくなって滞留したと思われる区域の写真、右のほうが台風21号時に水位が上昇した後の痕跡として並んでいる、そういう写真でございます。

続いて下のほうを見ていただきますと、淀川水系のごみ縦断分布ということで、河口から上流に向けて累積ごみの量が増加しており、大阪湾沿岸だけでなく、流域全体からごみが供給されていることがわかつて思います。

河川管理者、沿川の自治会などの皆様が清掃活動を懸命にしておられ、また、流域の都道府県でもごみの減量の取組が行われているにもかかわらず、河川敷にごみが散乱し、淀川を経て、大阪湾に運ばれている状況がございます。回収の取組に加えて、流域全体での発生源の抑制のための新たな取組が必要な状況になっております。

プラスチックについては、景観の悪化だけではなく、プラスチックが劣化してできるマイクロプラスチックの生態系への影響も懸念されているところでございまして、今年度はこの部会ではごみの発生源抑制の枠組みの実現可能性について引き続き調査・検討を行っていくものでございます。

次ページの下半分につきましては、こちらの部会ではなく、研究会のほうで部会に対していただいた意見を参考に添付しております。説明は以上でございます。

○井戸広域連合長　　大変な作業をやっていただいたんですけども、これ発生源対策をやらなければいけないという基礎調査になるんですか。

○事務局　　はい、三つ目につきましては、ごみの発生源対策について検討したものでございます。

○井戸広域連合長　　ごみの累積グラフ、反対のほうがいいみたいですね。河口に行けば行くほどたくさん累積が増えるっていう話ではないかと思う。河口が少なく、最初のほうが多いという、少し理解しにくいかな、グラフとしては。時間がないからやめましょう。コメントだけにして。他に何かございますか。

　　こういう形で、淀川流域全体の調査をさせていただいているのは、広域連合ができて、取組の成果、そういうことが言えるかと思えます。さらにしっかりと調査を進めさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

　　続いて、資料9に基づきまして、関西健康・医療創生会議のシンポジウムの状況を御説明いたします。

○事務局　　資料9を御覧ください。去る3月26日に大阪で開催をさせていただきました。当日は320名で、65%が企業の参加者となっております。当日は、三津家田辺三菱製薬の社長ほかいろいろ皆様方に御登壇いただきまして、さまざまな提言をいただきました。今後、製薬企業などを中心にビッグデータ、AI、IoTを使ったデジタルヘルスケアであるとか、健康と連動した金融商品であるとか、そういった新しいビジネスに対しての可能性についていろいろ御提案があったところです。御説明は以上でございます。

○井戸広域連合長　　特に御質問等ございませんか。

　　なければ、次にいかせていただきます。

　　次に、関空へのカンタス航空の直行便の運航の増便についてであります。

○西脇委員　　御報告をいたします。カンタス航空の関西国際空港とシドニー国際空港間の直行便につきまして、一昨日に関空エアポートとカンタス航空から、今年の12月から週4便に増便される旨のプレスリリースがございました。昨年4月に実施をいたしましたトッププロモーションによりまして、12月からこの直行便が実現しておりますけれども、本年の1月にこれの維持拡大に向けて意見交換を行うということで、京都府の村田府議会議長と、関西エアポート株式会社から成る訪問団がオーストラリ

アに参りまして、カンタス航空に直接増便についてお願いしたことが実を結んだと考えております。せっかく4便に増便されますので、関西観光本部を中心にいたしまして、オーストラリアに対します観光PRを機動的に実施しまして、直行便の維持拡大、それから観光振興に努めてまいりたいと思っております。

報告は以上です。よろしくお願ひいたします。

○井戸広域連合長 ありがとうございます。

利用状況を伺ってよろしいでしょうか。

○西脇委員 即答はできないんですけど。

○井戸広域連合長 利用状況、誰か答えられる。

○広域観光・文化・スポーツ振興局長 正確な数字は今手元にはございませんけれども、12月に直行便が開始されてからおおむね搭乗率としては高率の8割近い搭乗率で推移してきた状況にありますので、その結果もあって増便ということになったと思います。

○井戸広域連合長 大変いいことですよね。最初、臨時便からスタートと言っていたのが、本格的な定期便でスタートになって、また2便だと言っていたのが3便になってスタートして、それが今回また4便になる。

○西脇委員 利便性が増えるほど、ツアーとかも組みやすいと思います。

○井戸広域連合長 向こうからも来てもらえるといいですね。

それでは、関西広域産業ビジョン2011の改訂を、今年度予定されていますので、お願ひいたします。

○松井委員 関西広域産業ビジョンの改訂について御報告いたします。

広域産業振興局では、産業振興に関する分野別計画であります関西広域産業ビジョン2011を平成24年3月に策定をし、30年後の関西が目指す将来像の実現に向けて、今後おおむね10年を見据えて取り組むべき四つの戦略のもと取組を進めてまいりました。

ビジョン策定後6年が経過をし、社会経済状況を取り巻く環境も変化をしているこ

とから、その状況を踏まえたビジョンに改訂することといたしました。改訂に当たっては有識者で構成する関西広域産業ビジョンの改訂委員会を設置をし、AIやIoTを初めとする第4次産業革命の動きや、超高齢社会の当来、人口減少などの課題を共有した上で、今後の必要となる取組などについて議論を深めていきます。

なお、委員には学識経験者や国・経済団体の方々に就任をお願いをしており、第1回の委員会を5月中旬から下旬に開催をする予定です。

今後の予定につきましては、5回程度、委員会を開催をし、本年秋頃には中間案を取りまとめ、連合委員会と連合議会に報告の上、30年度中に最終案を取りまとめる予定です。

○井戸広域連合長     ありがとうございました。大変難しい時期だから、ビジョンを作るのは苦勞が要ると思いますが、どうぞよろしく願いをいたします。

続きまして、鳥取県のドクターヘリの運航につきまして、飯泉委員からお願いします。

○飯泉委員     それでは資料12を御覧をいただきたいと思います。

従来は、主に3府県ヘリが守備をしておりました鳥取県全域及び兵庫県の北西部、こちらを運航範囲といたします鳥取県のドクターヘリが、3月の26日から運航開始となったところでありまして、基地病院となります鳥取大学の医学部附属病院に平井知事さんとともに出席をさせていただきまして、運航開始式を執り行いました。当日は、鳥取県の議長さん、あるいは米子の市長さん、また境港の市長さんを初め、約60名の皆さん方に御出席いただきました。そして、式典におきましては、鳥取大学医学部附属病院のフライトドクター・ナースのお披露目、また救命救急センター長からの決意表明などを行っていただきますとともに、写真にもありますように、鳥取大学との基本協定、また鳥取県及び兵庫県との細目協定の調印を行わさせていただきました。また、調印式終了後につきましては、病院の屋上になりますヘリポートにおきまして、鳥取県ドクターヘリの視察を行い、フライトドクターからドクターヘリの機能などに

つきましての御説明をいただいたところであります。

そしていよいよ7機体制となるところであります。平時、災害時ともにシームレスにつなぎ、そして30分以内のレスポンスタイムはもとより、いざ発災となった場合にも、守備力を半減しない体制で取り組んでまいります。

なお、鳥取県ドクターヘリの愛称につきましては、KANSAI・おしどりとなりましたので、愛称とともによろしく願い申し上げたいと存じます。以上です。

○井戸広域連合長      ありがとうございました。

野川さん、つけ加えることありませんか。

○野川副委員      ありがとうございます。鳥取県全域ということでカバーできるようになりましたが、ちなみにこの1カ月で昨年と比較いたしますと中部での出動件数がすごく顕著に出ておりますので、これまで拾えなかった命等が、これでカバーできると思います。大変感謝しているところです。以上です。

○井戸広域連合長      KANSAI・おしどりが活躍することを期待しております。

御説明をいたしますのは以上でございますが、資料に平成29年度施策運営目標に対する行政評価ということで、事務的に取りまとめておりますので、御参照いただきましたら幸いです。説明は省略させていただきます。

次回の連合委員会でありますけれども、鳥取県の倉吉市内で開催をさせていただきます。この連合委員会は、近畿ブロック知事会議の開催と兼ねさせていただきますので、連合委員会の後、近畿ブロック知事会議が開催される予定となっております。どうかよろしく願いいたします。

とりあえず、用意しておりました議題は以上でございますが、この際でございます。何か御意見や御質疑等ございましたらお願いいたします。

ないようでしたら、以上で92回関西広域連合委員会を閉会とさせていただきます。御協力ありがとうございました。

○事務局      ありがとうございます。

それでは、引き続きまして、報道関係の皆さんから御質問をお受けしたいと思えます。何かございましたら、挙手の上、社名、お名前をお願いいたします。

よろしいでしょうか。それでは以上で終了させていただきます。どうもお疲れさまでした。

閉会 午後 5時20分